

令和3年10月 4日 (月)



これまで、3・4年生の子どもたちは、総合的な学習の時間に菅笠作り名人の伊藤さんのもとを訪ね、7月に菅刈りを体験し、9月には2回菅笠作りを体験してきました。

先週の金曜日に、飯豊町教育委員会社会教育課生涯学習振興室の方を講師として再度お招きし、3・4年生が、中津川の菅笠作りの歴史について学習しました。

また、9月の「宇津峠学習会」で、江戸時代から宇津峠を通して新潟の塩や海産物と交易があったことを学習していたので、菅笠も作って売っていたことを聞いて納得している様子でした。

しかし、当時の中津川地区の人口が6万4千人で、菅笠を1年に6万個も作って売っていたことを聞いて驚いていました。現在は日本でたった2カ所（富山県高岡市で76人くらい、飯豊町中津川地区で10人くらい）しか菅笠を作っていないそうです。

飯豊町教育委員会では、中津川地区の菅笠作りを何とか後世に残したいと考え、映像を制作したそうです。そして、菅笠作り名人の伊藤さんが出演しているその映像が、文部科学大臣賞を受賞していたことを知りました。3・4年生の子どもたちは、自分たちの学習をととても誇らしく思ったようです。

令和3年10月13日(水)



子どもたちの豊かな体験と郷土愛醸成のため、保護者から放課後の地域学校協働活動についてのご理解とご協力をいただき、10・11月の水曜日放課後活動(仮称)を、原則全員参加型の活動として試行することにいたしました。

本日は、手ノ子区協議会の皆さんが主催してくださり、公益財団法人「やまがた森林(もり)と緑の推進機構」の緑化推進部緑化推進課の職員の方々をお招きして、「ブナの木植えのお楽しみ会」を開催してくださいました。

手ノ子区協議会長さんからは、「昨年度まではバス時刻の都合で全員参加が望めなかったが、今回子どもたち全員に参加してもらえてうれしいし学校に感謝したい。手ノ子小のみなさんには、さらに森林に関心をもってもらいたい。」といったご挨拶をいただきました。

地域学校協働活動推進員からは、「手ノ子区協議会のみなさんは、「桜の森」を「はなのもり」と呼んで、毎年サクラやモミジの木を植えている。花見ができるのは何十年とかかる。自分たちのためではなく、手ノ子小のみんなが大人になり、子どもや孫ができる頃に花見ができるように活動している。みんなの未来のために立派な活動をしている。」という話がありました。

子どもたちがいただいた小さなブナの苗木は、それぞれの自宅で2年間くらい大事に育てた後、山に植えることで「みどりのダム」という大きな役割を果たすこととなります。

令和3年10月15日（金）



飯豊中学校さんからは、小中連携を深める視点で様々な取組にご案内いただいています。

8月27日（金）の飯豊中運動会応援見学と小中連携競技「まり入れ」への参加は、新型コロナウイルス感染症「感染拡大防止特別集中期間」のために叶いませんでした。

しかし、9月24日（金）には、数学の合同授業（飯豊一小的の6年生と）と新人戦壮行式見学に参加させていただくことができました。また、本日は、理科の出前授業のために、飯豊中で1・2年生の理科を担当している先生が来校してくださいました。

6年生の子どもたちは、数学や理科の先生から、中学校の学習の雰囲気味わわせていただいたり、中学校の先輩方の部活動に向き合うかっこいい姿を見せてもらったりして、期待に胸を膨らませて進学することができます。

飯豊中学校さんのこれまでの取組に改めて感謝いたしますとともに、1月の入学説明会の際に計画していただいている英語の合同授業（飯豊一小、飯豊二小、添川小と）も楽しみに待ち望んでおります。

令和3年10月18日（月）



本日の5校時に、今年度2回目の避難訓練を行いました。本来であれば、9月1日の防災の日近辺で行う予定でしたが、起震車を体験できるということで期日をずらしていました。

故障により起震車には乗れませんでした。お忙しい中、西置賜行政組合消防署飯豊分署より5名の署員の方がご来校くださり、避難訓練の講評と、校舎内巡視後のご指導を頂きました。

講評では、代表の方から子どもたちに、「自助」と「共助」というお話をいただきました。「自助」とは、地震はいつ起きるか分からないので、休み時間なども自分の身は自分で守るために、近くの危険物から離れることなどです。「共助」とは、自分の身を守ることができたら、友達など周りのことも気にかけて助け合うことです。

校舎内巡視後のご指導では、エアコンなど天井に吊って固定してあるものや窓ガラスからできるだけ離れて机の下に潜ること、その際、教職員はできるだけ子どもの様子を見ながら自分の身を守ることなど、具体的にご指導を頂きました。

令和3年10月20日（水）



10月13日（水）の「ブナの木植えのお楽しみ会」に続き、本日2回目となる放課後活動（仮称）を行いました。

飯豊町の昔語りを映像に残す活動をされている読み聞かせボランティア団体の「あ～すまいりーず」の代表と撮影を担当する飯豊町観光協会の方の紹介で、やまがたアルカディア観光局の方と長井市地域おこし協力隊の方を講師にお招きして、「もしかめけん玉講習会」を開きました。

学校協働活動推進員は、この放課後活動をきっかけにして、11月10日（水）の放課後活動で予定している「もしかめけん玉撮影会」に、手ノ子小の子どもたち全員を参加させたいと考えていることを、地域飯豊町観光協会の方に伝えました。飯豊町観光協会の方からは、

「失敗しても大丈夫。それが味になるし、編集することもできるから。一生懸命の姿が見せられればいい。」

という励ましのお言葉を頂きました。

講師の方々からは、

「速くやってミスするより、ゆっくりノーミスでやった方がカッコいい。生卵を乗せているつもりで優しく、ひざを使って。」

とアドバイスしていただきました。

令和3年10月23日(土)



2学期の始業式で、ソサエティ5.0の話をした最後に、「自分の考えを言葉、文字、図・表・プログラム・動画など、いろいろな形で表現する力を、仲間と共につけていきましょう」という話をしました。今日の発表も、いろいろな表現の仕方でお家の方や他の学年の仲間に向けて、学習したことを伝えることができました。

全校合唱「ふるさとは今もかわらず」では、4年生が1年生の時から毎年、めざみの里音楽祭に向けた合唱練習を指導していただいている土屋先生が、オンライン配信による動画撮影のために、今日も学習発表会に参加してくださいました。最後の練習の際に、土屋先生がアドバイスしてくださいましたことが今日の学習発表会で一番大事なことだと感じました。それは、「どれだけ気持ちを込めて伝えるかが大切だ」ということです。今日の合唱からは、「21人全員で力を合わせてやり切るぞ」という強い思いと、「緑豊かな手ノ子・高峰・中津川地区に生まれてきて良かった。お父さん、お母さん、ありがとう!」という感謝の気持ちが伝わってきました。

令和3年10月27日（水）



昨日26日（火）に飯豊町教育委員会の学校訪問があり、教育長様、教育長職務代理者様、3名の教育委員様、教育総務課長様、学校教育振興室長様、指導主事様の8名が来校されました。

はじめに、校長から学校経営概要について説明し、その後、教頭の案内のもと授業・校舎を一巡していただき、最後に意見交換を行いました。

教育長様からは、
「委員からの感想にもあったように、ICTの活用を頑張っている様子が伺われた。どの教室でも、ICTを十分活用し、使いこなしている。2年生の子どものタブレットを操作する様子から、リテラシーのすごさを感じた。3・

4年複式担任、5・6年複式担任とも、子どもたちのつづやきに耳を傾けながらも、テンポよく、表情もよく授業をされているところが素晴らしい。子どもたちにもその様子が伝わり、全員が集中して授業に向かっている。また、校長の経営概要説明からは、少人数のハンディキャップをなんとか克服していきたいという思いを感じる取組が非常に多い。オンラインでの他校との交流であったり、東京外語大との交流であったり、地域の方々との色々な接点により、去年の子どもたちの様子と比べて、自分の思いをしっかりと伝えることができる表現力、意欲が育っていると感じた。ICTをこれからどのように活用していくかが飯豊町の課題。手ノ子小学校の取組が、町の先進事例として広がってほしい。これからも、是非事例を積み上げていってほしい。町内の中はもちろん、他県や外国とのオンライン交流にも挑戦してもらいたい。最後に、地域との交流を大事にしている姿勢は、地域に信頼を生む。地域の方々为学校に足を運ぶ機会を提供してくれていることが、地域にとっては嬉しい。10月と11月を放課後活動の試行期間と位置付けているようだが、是非通年で取り組んでいってほしい。」
といったご指導・ご助言をいただきました。

令和3年10月29日（金）



子どもたちの豊かな体験と郷土愛醸成のため、保護者から放課後の地域学校協働活動についてのご理解とご協力をいただき、10・11月の水曜日放課後活動（仮称）を、原則全員参加型の活動として試行しています。

27日（水）には、婦人教室「さわやかクラブ」の9名の皆さんが来校して下さり、ゴムでっぼうで夕ご飯の材料の的を当てるゲームを子どもたちと一緒に楽しんでいただきました。

「さわやかクラブ」は32名の会員数で、今年度は月1回、水曜日の午後に西部地区公民館で活動されているそうです。この度は、わざわざ10月の活動計画を変更して、公民館職員の皆さんと一緒に準備してくださいました。クラブとしても、これまで交流活動を行ってきた幼稚園が休園となったため、小学校との交流を望んでくださっていたようです。

子どもたちからは、
「家にもてっぼうのおもちゃがあるけれど、ゴムでっぼうの方が当てるのが難しくておもしろかった。」
「的に当てられなかったけれど、グループのみんなが食材をたくさん集めてくれて、いろいろなメニューが考えられて楽しかった。」
といった振り返りがありました。

さわやかクラブの方々も、
「子どもたちと交流できて楽しかった。『インゲンで何作る？』と声をかけると、『インゲンのごまあえ』という答えが返ってきて驚いた。」
といったように、夕ご飯の食材を通して子どもたちと話ができとても喜んでいた様子でした。